

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 三重県津市広明町13番地
管理機関名 三重県教育委員会
代表者名 教育長 木平 芳定

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日(契約締結日)～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 三重県立宇治山田商業高等学校

学校長名 廣島 朗

類型 グローカル型

3 研究開発名

「観光都市 with SDGs」～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

4 研究開発概要

(1) SDGs推進プログラムの開発

① SDGs基礎プログラム(教科横断的な視点)

各教科・科目(国語、地歴、公民、家庭、商業など)でSDGsに関連する知識を学ぶとともに、SDGsについて造詣が深く生徒への講演や指導、教員研修等を行うことができる者(以下「環境教育アドバイザー」という。)や企業でSDGsを担当している専門家、コンソーシアムの皇學館大学の教授等から、貧困の根絶(経済や社会開発)と持続可能な社会(環境)の両立や不平等(格差)の是正について学ぶ機会を設ける。

② SDGs探究プログラム

科目「課題研究」において、1・2学年で学習したSDGsの知識を活用し、伊勢市内のグローバルカンパニーへのインターンシップや廃棄食材を使用した商品開発等をとおして、思考力・判断力・表現力を高める探究的な学びを実施する。

③ SDGs語学力向上プログラム

語学力の向上や異文化理解を深めるため、留学生との交流会や校内外の英語スピーチコンテスト等への積極的な参加を推進する。また、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を令和2年度から開設し、SDGsを主テーマに大学生や留学生と福祉、医療、環境等の地球的規模の課題に関するディスカッションやディベートをとおして、英語コミュニケーション力の向上を図る。

(2) 観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」において、観光資源(自然・歴史・食文化等)が豊かな伊勢志摩地域を活性化するた

め、課題研究「観光とビジネス」で答志島でのエコツアー体験や、自治体の「まち・ひと・しごと総合戦略」についての調べ学習をとおして、旅行コンテンツやプランを作成し、JTB観光開発プロデューサーへのプレゼンをとおして「高校生エコツーリズム」の取組を行う。また、2学年「ビジネス情報管理」において、海女をテーマにした動画を作成し、観光甲子園に応募、ESS部（みえグローバル学生大使）が伊勢志摩情報発信のSNS（インスタグラム）を定期的に更新する「“山商”伊勢志摩観光大使」の取組を行う。

② 国際交流プログラム

国内外での国際交流活動（観光先進国への海外研修、三重県が観光協定を結んでいる台湾との交流等）を推進し、主体性・積極性等を育成するとともに、観光先進国から、伊勢志摩地域を観光都市として築き上げる手法を学ぶ機会を創出する。

(3) 効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

- 英語によるディベートやディスカッション等のパフォーマンス、課題研究及び校外における活動に係るポートフォリオを評価するための評価規準を策定する。

② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して生徒の資質・能力の伸びを把握し、各種プログラムの効果を検証する。

③ 外部評価

地域・コンソーシアム等への提言を含めた発表会において、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケート等により外部有識者の評価を受ける。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- 学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- 教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
高見 啓一	日本経済大学 准教授	学識経験者
矢部 一成	IGS株式会社 教育事業部マネージャー	グローバルに活躍する教育分野の企業
生川 哲也	三重県雇用経済部国際戦略課長	関係行政機関職員
三田 泰久	株式会社アーリー・バード 代表取締役	地域のグローバル企業
井上 珠美	三重県教育委員会事務局高校教育課長	関係行政機関職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制



コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
宇治山田商業高等学校	学校長 廣島 朗
伊勢市役所	産業観光部 部長 須崎 充博
皇學館大学	文学部コミュニケーション学科 教授 豊住 誠
伊勢農業協同組合	営農部 部長 河井 英利
ULジャパン	人事総務部 部長代理 福村 伝史
海女小屋 はちまんかまど	代表取締役社長 野村 一弘
三重県教育委員会事務局高校教育課	課長 井上 珠美

8 カリキュラム開発専門家，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	三橋 正枝	(特定非営利活動法人) SesLab 代表理事	都度依頼し謝礼支払い
地域協働学習支援員	堀江 しおん	伊勢志摩ビデオサービス (株) 役員	都度依頼し謝礼支払い

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の開催				1回								1回
コンソーシアム会議					1回			1回			1回	
県事業「学びのSTEAM化推進事業」	通年											

(2) 実績の説明

- ① 管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成，カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について
 - ・ 運営指導委員会の開催やコンソーシアムの会合などへの出席を通じて，定期的に事業の内容や進捗状況を把握し，指導・助言を行っている。特に，令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により，計画の変更を余儀なくされたため，県教育委員会を中心にコンソーシアムの意見も参考にしながら，代替案の検討について支援してきました。
 - また，コンソーシアムの構成，カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員についても，本事業の目的を達成するために必要な人材を確保するため，支援してきました。
- ② 管理機関による主体的な取組について
 - ・ 県事業「学びのSTEAM化推進事業」の研究校に指定
 - ・ 商品開発への協力（コンソーシアム）
- ③ 事業終了後の自走を見据えた取組について
 - ・ 新規の県事業を立ち上げ，継続して地域と協働した取組やグローバル人材の育成に向けた取組ができる支援体制を構築予定

10 研究開発の実績

本研究開発において，持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため，「地球市民力（課題解決力，論理的思考力，地域への貢献力，語学力）」と「未来創造力（企画力，調整力，実践力，突破力，創造力）」を身に付ける「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」をコンソーシアムや地元企業等と連携して実施している。

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
SDG s 講演会								1回				
各科目の内容に沿ったテーマでSDG sに関する授業を実施	全科目で1回以上実施											
科目「ビジネス情報管理」において、海女をテーマとした伊勢志摩PR動画を作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」で実施した取組を伊勢市長へプレゼン提案										1回		
科目「課題研究」において、地元企業と連携した商品開発	通年											
科目「課題研究」において、観光をテーマに探究活動	通年											
科目「課題研究」において、SDG sを踏まえたビジネスプラン作成	通年											
商業の科目において、コンソーシアム等の地元企業人と交流				1回	4回	5回	3回	3回	1回	1回		
英語セミナー開催				1回					1回			
科目「グローバル・コミュニケーションA・B」においてSDG sの観点に基づいた授業を実施	通年											
校内英語スピーチコンテスト開催										2回		
みえグローバル学生大使活動	通年											
SDG sや観光に関する研修						1回	4回	3回	1回	1回		
オンラインを活用した交流会						1回	1回	1回	2回			
全生徒・コンソーシアム等を対象とした成果発表会								1回			1回	
効果測定の開発・検証(A i G R O W)				1回	2回	1回			1回	1回		

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) SDG s 推進プログラム開発

- ・ SDG s 基礎プログラムとして、すべての教科・科目でSDG sに関連する授業を1回以上実施した。
- ・ SDG s 探究プログラムとして、科目「課題研究」において、SDG sに取り組む企業のオンライン調査や、廃棄食材を使用した商品開発などを実施した。また、SDG sに取り組む企業・自治体での実地研修や、SDG s 先進国であるスウェーデンの事例調査をオンラインによって実施した。
- ・ SDG s 語学力向上プログラムとして、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、SDG sの観点に基づいた授業を実施した。また、コミュニケーション能力を高めるため、終日英語のみで会話する学年別英語セミナー（国際科）や、校内スピーチコンテストを実施した。

(イ) 観光都市を描くプログラム開発

- ・ 伊勢志摩PRプログラムとして、科目「ビジネス情報管理」において海女をテーマとした伊勢志摩PR動画を作成し、NEXT TOURISM 主催の「観光甲子園」に応募した。また、科目「課題研究」において、SDG sの理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組を学ぶ探究活動を実施した。さらに、みえグローバル学生大使（三重県雇用経済部国際戦略課事業）

の委嘱を受けたE S S部生徒を中心に、SNS (Instagram) による三重の魅力紹介や、第9回太平洋・島サミット開催に向けたオンライン活動（島サミットのPR、日本文化の紹介、三重の情報発信）に参加した。

- ・ 国際交流プログラムとして、12月にオーストラリア姉妹校の生徒とオンラインによる交流を実施した。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

- ・ SDG s 基礎プログラム

全教科・科目で、教科・科目の特性を生かした授業を実践した。（例えば、現代社会の諸課題である「地球環境問題」、「資源・エネルギー問題」、「国際経済の動向と貧困の解消」等についての考察を深めるため、グループ討議や発表）

- ・ SDG s 探究プログラム

商業科目「課題研究」において、地域の廃棄食材を活用した商品開発（あかもくコロッケ）や持続可能な社会の実現に向けたビジネスアイデアの考案をした。

- ・ SDG s 語学力向上プログラム

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、SDG s 基礎プログラムで学んだことを校内スピーチコンテストの場で発表した。

- ・ 伊勢志摩PRプログラム

商業科目「ビジネス情報管理」において、海女をテーマとした伊勢志摩PR動画を作成し、「観光甲子園」に応募した。

E S S部において、みえグローバル学生大使の委嘱を受けて、SNS (Instagram) を利用した三重県の紹介や、第9回太平洋島サミット開催に向けてオンラインイベントやオンライン交流会を実施した。

商業科目「課題研究」において、SDG s の理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組を学ぶ探究活動を実施した。

- ・ 国際交流プログラム

オーストラリア姉妹校と、オーストラリアから見た日本の印象や生活・文化の違いについてオンラインによる生徒同士の交流を12月に実施した。

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・ SDG s 講演会を開催し、生徒・教員ともにSDG s に関連する知識を習得する機会を設けた。また、教員は、各教科のSDG s に係る取組を把握し、生徒が身につけた知識を全体で共有したうえで、授業を実施した。例えば、「食品ロス」について、公民科で、食品ロスに関して実施したアンケートや新聞記事をもとに、考えをまとめた。商業科では、伊勢市清掃課と連携し、スーパーの惣菜売り場において、賞味期限の近い商品の廃棄処分を軽減するためのキャンペーンを企画・運営した。

- ・ 各教科において、1年目に実施した授業実践をもとにSDG s の視点を踏まえた学習内容を再検討し、それに基づいた授業を各教科・科目で1回以上実施した。また、それらを地域課題研究委員会で集約し、本事業の目的実現に向けたPDCAサイクルの構築につなげるための検討を行った。

④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、学校に地域課題研究委員会を設置して、生徒が「地球市民力」と「未来創造力」を身に付けられるプログラムの開発・実践のための企画運営を行うとともに、カリキュラム開発専門家や地域協働学習実施支援員（外部人材）を活用し、プログラムの充実を図った。また、伊勢志摩地域を支える人材育成を考える「グローバル人材育成コンソーシアムみえ」を構築し、産学官のスムーズな連携による探究的な学びを実現した。

さらに、本事業の目的や取組の方向性を踏まえた学習活動等が実践できているかを検証するため、運営指導委員会を設置し、効果等の検証を行うことで、事業のPDCAサイクルを構築した。

⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

- ・ 地域課題研究委員会において、推進担当者を中心に、各プログラム内容について協議を進めるととも

に、地域協働担当者や海外研修担当者を校内に設置し、地域と連携した取組や海外研修プログラムを作成した。

- ⑥ カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
- ・ カリキュラム開発専門家は、本事業の学習活動および各プログラムに対して、持続可能な社会の実現に向けた「SDG s の視点」を踏まえた指導・助言を行った。また、そのために地域課題研究委員会へ参加した。
 - ・ 地域協働学習実施支援員は、商業科目「ビジネス情報管理」の授業に参加し、伊勢志摩PR動画作成について指導・助言を行った。また、第3回コンソーシアム会議に参加し、意見交換を行った。
- ⑦ 校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- ・ 校内の地域課題研究委員会にて、定期的に各プログラム作成の進捗報告や実践報告を行い、改善策などについて検討した。
 - ・ 2月に生徒アンケートを実施して、その成果を検証し、次年度への改善につなげた。
- ⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- ・ コンソーシアム会議にて、今後の取組に関する現状と課題について協議し、意見交換を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた海外研修（スウェーデン：SDG s の先進的な取組を学ぶ、マレーシア：観光資源を活用したエコツアーやグリーンツーリズムを学ぶ）が中止となったため、当初の目的を達成できる国内研修について協議し、意見交換を行った。
 - ・ グローバルワークショップとして、代表生徒がこれまでの取組と今後の計画について中間報告をし、その内容や学びの過程から生じた生徒の疑問について意見交換を行った。
- ⑨ 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
- ・ 運営指導委員会において、資質・能力測定ツール「AiGROW」による各種プログラムの効果を検証した結果、有効性が高いことを共有した。
 - ・ みえグローバル学生大使の取組への具体的な示唆をいただいた。
 - ・ 本事業の各プログラムについて、持続可能な体制の確立に向けて協議を行った。
- ⑩ 以下の（ア）～（カ）の趣旨に応じた取組について
- （ア）地域の特性を踏まえつつ、グローバルな社会課題・地域の社会問題の解決に向けた学びや生徒のキャリアデザインを促すための取組
- ・ SDG s 講演会を開催し、あらためてSDG s の必要性を問うとともに、これからの社会を支える高校生がSDG s にどのように向き合うべきなのかを考える機会とした。
 - ・ 農業をとおしたSDG s の取組を学習するため、第一次産業（農業）を中心にSDG s を進めている兵庫県丹波市の取組を視察した。
 - ・ 県内のSDG s に関する取組を学習するため、「SDG s 未来都市」及び「自治体SDG s モデル事業」に選定されたいなべ市において、SDG s に関する官民の取組を視察した。
 - ・ 資源循環型社会を目指す取組を学習するため、鳥羽市リサイクルパークを訪問し、生ゴミ堆肥化や資源循環について学習し、環境問題について考えた。
- （イ）外国語教育において、地域との関連から英語のコミュニケーション能力を高める取組
- ・ 太平洋・島サミット開催に向けてのオンラインイベントや海外の大学生とのオンライン交流会に参加し、英語で伊勢志摩の魅力を紹介した。
- （ウ）外国語教育におけるディスカッション等の主体的な学びを促す取組
- ・ 学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、語学力の向上と異文化理解等を深めるため、英語でディスカッションを行った。また、英語のスピーチ原稿等を作成し、校内スピーチコンテストで発表した。
- （エ）海外の学校との定常的な連携による海外研修等
- ・ 9月のオーストラリア姉妹校生徒受け入れや3月のオーストラリア姉妹校への海外研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、中止した。
 - ・ スウェーデン研修プログラムの開発

SDGsの視点を踏まえた地域リーダーを育成するため、SDGsの理念に基づいた経営をしている企業への訪問や現地の高校生との交流を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。代替として、スウェーデン研修で面会予定だった方と、オンラインでつながりSDGs先進国について事例調査を行った。

・ マレーシア研修プログラムの開発

伊勢志摩の基幹産業である観光業等で活躍する人材を育成するため、実際のエコツアー等を体験する研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。代替として、鹿児島県沖永良部島の自治体や高校生とオンライン会議を実施し、SDGsの理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組について双方が意見を出し合った。

(オ) 海外からの留学生等と一緒に学ぶ探究的な活動

- ・ オーストラリア姉妹校の生徒と、お互いの国のSDGs取組に関するオンラインで意見交流を行った。

(カ) 地域への理解を深めるための取組

- ・ みえグローバル学生大使（生徒13名）として、小学生向け英語クイズの教材を作成し、地域の小学校に紹介した。
- ・ 商業科目「ビジネス情報管理」において、伊勢市職員とともに地域の食品スーパーで、買い物客に消費期限や賞味期限が近い食品から購入してもらうよう呼び掛け、食品ロス削減の啓発活動を実施した。

⑪ 成果の普及方法・実績について

- ・ 地域の本事業に係る委員に案内し、2月1日に全学年が参加した成果発表会を開催し、学校全体の活動取組とした。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業は、「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の実践により、学習内容の充実が図られ、「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」を生徒に身に付けることを目標としている。

(1) 「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」の育成

- ① 地域や企業等と連携した取組やコロナ禍における探究活動等をとおして、「地球市民力」と「未来創造力」が身につけているかを生徒アンケート等により把握する。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
「地球市民力」と「未来創造力」が身に付いた生徒の割合	59%	61.0%	66.7%	70%

② IGS株式会社のAiGROWを活用した測定

2020年において有意性が認められたのは、「課題設定」と「創造性」、「協働性」の3つである。2019年7月と2020年12月を比較すると、ほとんどのコンピテンシーの成長に有意性が認められた。昨年度に課題であった「課題設定」と「論理的思考」、「個人的実行力」のうち、「個人的実行力」について引き続き課題があることが分かったため、次年度の3学年「課題研究」において、自治体や企業との関わりをとおして、主体的に活動しながら、「個人的実行力」を高めることができるようプログラムに反映する。

分野	コンピテンシー	2019年		2020年		2020年7月→12月			2019年7月→2020年12月		
		7月	12月	7月	12月	変化	有意差	t検定	変化	有意差	t検定
認知系	課題設定	0.567	0.568	0.584	0.604	0.020	あり	0.033	0.046	あり	0.000
	論理的思考	0.563	0.571	0.599	0.606	0.007	なし	0.427	0.049	あり	0.000
	疑う力	0.574	0.579	0.599	0.611	0.012	なし	0.200	0.040	あり	0.000
	創造性	0.509	0.542	0.565	0.595	0.030	あり	0.005	0.089	あり	0.000
自己系	個人的実行力	0.638	0.629	0.628	0.622	-0.007	なし	0.481	-0.004	なし	0.706
	自己効力	0.553	0.563	0.597	0.616	0.019	あり	0.037	0.058	あり	0.000
	耐性	0.601	0.6	0.610	0.634	0.024	あり	0.005	0.048	あり	0.000
	決断力	0.59	0.586	0.586	0.608	0.022	あり	0.012	0.023	あり	0.021
他者系	表現力	0.537	0.553	0.556	0.567	0.011	なし	0.300	0.023	あり	0.033
	共感・傾聴力	0.613	0.605	0.623	0.611	-0.012	なし	0.241	0.007	なし	0.543
	柔軟性	0.576	0.58	0.588	0.596	0.008	なし	0.360	0.031	あり	0.001
	影響力の行使	0.46	0.488	0.516	0.545	0.029	あり	0.007	0.067	あり	0.000
コミュニティ系	地球市民	0.523	0.536	0.562	0.569	0.007	なし	0.439	0.054	あり	0.000

※ 太字は、本事業で育成したい資質・能力。「協働性」は「自己効力」と「影響力の行使」の組み合わせで定量化

※ t検定とは、事前と事後の変化がプログラムの効果によるものと仮説を立て、実行したプログラムの有意性を検証した結果

(2) 地元に定着して活躍する地域人材の育成

本事業は、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的としており、地元で就職し、地元に定着して活躍する人材を育成する必要があることから、企業アンケートにより職場定着の状況を継続して把握するとともに、各プログラムに地域の魅力や働くことの意義等について理解する学習内容を反映する。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
地元就職者のうち、高校卒業後に入社した地元企業での職場定着率	73.3%	76.0%	97.4%	80%

※ 2020年度職場定着率は、2017年度から2019年度卒業生のうち、就職者がいる地元企業からの聞き取りにより把握

(3) 語学力の向上

SDGs 語学力向上プログラムにおいて、英語のみを使用する環境を創出するとともに国際交流活動の充実を図ることで、英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解の促進を図る。今年度から、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」を新設して、英語コミュニケーション力等の一層の向上をめざしている。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
卒業時における生徒(200人)の4技能の総合的な英語力としてのCEFRのA2レベル以上の生徒の人数	84人	64人	74人	120人

(4) 地域人材を育成する高校としての活動について

グローバルな課題解決のために必要なIT関連の全国大会で優勝するとともに、コロナ禍で様々な全国大会が開催中止となる中、観光甲子園やエシカル甲子園にエントリーするなど多くの生徒が各種大会に挑戦した。また、本県の「みえグローバル学生大使」として任命されている本校生徒が、地域における国際交流活動を行った。次年度のプログラムでは海外研修プログラム等、積極的にグローバルな視野を身に付ける機会を実践する。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンラインによる活動を行う。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
グローバルな社会又は地域のビジネス課題に関する公共性の高い全国大会等における入賞者数	2.5%	5.7%	2.2%	10%
みえグローバル学生大使として、地域において国際交流活動に参加	—人	29人	13人	120人

(5) 地域人材を育成する地域としての活動について

本事業においては、コンソーシアムを構築し、将来の伊勢志摩地域を担う「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成する取組を進めた。「課題研究」をはじめ「ビジネス経済応用」「ビジネス情報管理」「財務会計Ⅱ」等の科目において、地元企業や自治体、大学等から企業人等の派遣を受け、学習内容の充実を図ることができた。次年度の3学年「課題研究」の全ての講座で、自治体や地域の企業と連携してインターンシップ等の取組を行う。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
「SDGs推進プログラム」及び「観光都市を描くプログラム」への企業・地方自治体・企業等の協力者数	—人	40人	51人	50人

地元企業でインターンシップ等を体験した生徒の割合	32.1%	42.0%	61.9%	100%
--------------------------	-------	-------	-------	------

※ インターンシップ等体験生徒の割合は、卒業時における生徒（200人）の割合で計算

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) SDG s 推進プログラムの開発

① SDG s 基礎プログラム

本年度は、SDG s についての講演会を実施したり、すべての教科・科目でSDG s に関する内容を扱った。次年度以降は年間をとおして、SDG s を核とするカリキュラム・マネジメントについて学習指導委員会で協議し、全教科・科目の連携を図りながら体系的にSDG s の知識を育成する必要がある。

また、SDG s の目標17のうち、教科・科目で扱う分野に偏りがあるため、バランスよく学べるような工夫が必要である。

② SDG s 探究プログラム

3年次の科目「課題研究」において、1・2年次で学習したSDG s の知識や研修経験を生かして、テーマ課題に対して思考力・判断力・表現力を高める探究的な学びを実施する。

③ SDG s 語学力向上プログラム

大学の留学生等との交流会やディスカッション及びディベート等をとおして、英語コミュニケーション力の向上を図るとともに語学力の向上や異文化理解をさらに深める。

(2) 観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」のうち本年度新設したテーマ「観光とビジネス」において、観光資源（自然・歴史・食文化等）が豊かな伊勢志摩地域をさらに活性化するために、伊勢志摩PR動画の作成やエコツアープランを企画・提案する活動をとおしてPRにつながる取組を行う。

② 国際交流プログラム

観光先進国（マレーシア）への海外研修や、三重県が観光協定を結んでいる台湾の商業高校生との交流を推進し、主体性・積極性を育成する。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンラインによる海外事例調査の実施、SDG s の取組事例調査や観光資源を活用したエコツアーやグリーンツーリズムを学ぶ国内実地研修を実施する。

(3) 効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

- ・ パフォーマンス課題等に対するルーブリック開発により評価規準が明確になったが、校外における活動等に関する評価規準については引き続き検討する必要がある。

② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- ・ IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して、生徒の資質・能力の伸びを把握するとともに、三菱UFJリサーチ「高校魅力化評価システム」の運用も開始していることから、両ツールの良さを活かし、より効果的な資質・能力の測定方法についてさらに研究する。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	059-224-3002
氏名	上村 峰生	FAX	059-224-3023
職名	指導主事	e-mail	uemurm04@pref.mie.lg.jp